

読 響

Yomiuri
Nippon
Symphony
Orchestra

これは誰の仕業か？
オベロンか、パックか？
いや・・・

ありえない夜



研ぎ澄まされた美意識で音楽への深い愛を注ぐ鬼才

桂冠指揮者 シルヴァン・カンブルラン

Conductor= SYLVAIN CAMBRELING



自らの表現を追求する比類ない芸術家

ピアノ 北村 朋幹

Piano= TOMOKI KITAMURA

メンデルスゾーン：付随音楽「真夏の夜の夢」序曲

MENDELSSOHN: "A Midsummer Night's Dream" Overture

細川俊夫：月夜の蓮 —モーツァルトへのオマージュ—

HOSOKAWA: Lotus under the Moonlight —hommage à Mozart—

ツェンダー：シューマン・ファンタジー (日本初演)

ZENDER: Schumann-Phantasie (Japan Premiere)

読売日本交響楽団 第650回 定期演奏会

2025 7.8〈火〉19:00 サントリーホール

YNSO Subscription Concert No. 650 Tue. 8 Jul. 2025, 19:00 Suntory Hall

S¥8,800 A¥7,700 B¥6,600 C¥5,000

読響チケットセンター 0570-00-4390(10時-18時・年中無休)

主催：読売新聞社、日本テレビ放送網、読売テレビ、読売日本交響楽団

助成：文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術等総合支援事業(公演創造活動))

独立行政法人日本芸術文化振興会

協力：アフラック生命保険株式会社

なんと刺激的！

鬼才カンブルランが誘う新たな世界。 北村朋幹が細川作品で静謐かつ極上の美を追求！

シルヴァン・カンブルラン 桂冠指揮者

色彩豊かな音楽作りで、読響を世界のトップレベルへと導いた名匠。1948年フランス・アミアン生まれ。2010年から9年間、読響常任指揮者を務め、幅広いレパートリーを演奏し、高い評価を得た。19年から桂冠指揮者の任にある。バーデン・バーデン&フライブルクSWR響の首席指揮者、ベルギー王立モネ歌劇場、フランクフルト歌劇場、シュトゥットガルト歌劇場の音楽総監督などを歴任。ザルツブルク音楽祭、ルール・トリエンナーレなど世界最先端の音楽祭で活躍している。現在、ハンブルク響の首席指揮者、クラングフォルム・ウィーンの名誉首席客演指揮者を務めている。読響とは17年にメシアン「アッシジの聖フランチェスコ」でサントリー音楽賞、22年にヴァレーズ「アルカナ」などで文化庁芸術祭大賞を受賞した。

北村 朋幹 ピアノ

©TAKA MAYUMI

飽くなき美を追求する哲学的英知を備えた唯一無二の“芸術家”。浜松国際コンクール第3位、リーズ国際コンクール第5位、ボン・テレコム・ベートーヴェン国際コンクール第2位、東京音楽コンクール優勝。日本国内と欧州各地でソリストとして著名楽団との共演のほか、リサイタルや室内楽で幅広く活躍している。近年では、近現代作品の演奏への評価も高く、2022年「北村朋幹 20世紀のピアノ作品（ケージと20世紀の邦人ピアノ作品）」で佐治敬三賞受賞。24年にはアルディッティ弦楽四重奏団と共に2曲のピアノ五重奏曲を世界初演し、成功を収めた。録音は、6タイトルのソロアルバムをフォンテックよりリリースし、「リスト 巡礼の年 全3年」ほかの成果により、25年に令和6年度芸術選奨（音楽部門）文部科学大臣新人賞を受賞。ベルリン在住。

音楽は、瞬時に消えてしまう。しかし、想像力を掻き立て、過去と今、今と未来を繋ぐ架け橋にもなる。

読響と多くの近現代作品を手掛け、数々の名演奏を生んできたフランスの鬼才シルヴァン・カンブルランが、古典と現代を繋ぐようなクリエイティブなプログラムを披露する。

メインは、カンブルランが親交を結んでいたドイツの作曲家ハンス・ツェンダー（1936-2019）による「シューマン・ファンタジー」。シューマンの有名なピアノ曲「幻想曲 作品17」を基に、多くの打楽器もユニークに用いながら色彩豊かな管弦楽作品に仕上げたもので、ピアノ曲とは全く異なる独創的な響きが特徴的だ。従来の「編曲」という枠に囚われず、シューマンの3つの楽章とは別に楽器の特殊奏法やノイズを駆使して「前奏曲」や「間奏曲」を加えている点も斬新だ。今回が日本初演となるが、カンブルランは「かねてから日本で紹介したいと思っていた作品。読響となら繊細かつカラフルなサウンドを作り、ツェンダー流のファンタジーに溢れた曲の魅力を伝えられるはず」と意欲を語っている。

前半には、ベルリンを拠点に活動し、哲学的英知を備えた唯一無二の“芸術家”北村朋幹が登場。現代日本を代表する作曲家・細川俊夫のピアノと管弦楽による「月夜の蓮」を弾く。この曲は、細川が2006年にモーツァルトの生誕250周年を祝して書いたもので、静けさの中に、蓮の花が開く様子がドラマティックかつ神秘的に描かれる。カンブルランは、細川作品を長年にわたり多く手掛け、シュトゥットガルト歌劇場では「地震・夢」を成功へと導いた。一方、北村も昨年ベルリンにてアルディッティ弦楽四重奏団と共に細川のピアノ五重奏曲を世界初演するなど、細川の世界観を深く心得ている一人だ。今回、「月夜の蓮」でカンブルランと北村がどのような化学反応を起こすのか、ご注目いただきたい。

1曲目、この“幻想的”なプログラムを象徴するかのように、メンデルスゾーンの「真夏の夜の夢」序曲を披露する。カンブルランのタクトから生まれた妖精たちが飛び回り、私たちを夢幻の世界へと誘うだろう。

読響日本交響楽団 第650回 定期演奏会

2025年 7月8日（火）19時開演

サントリーホール

東京都港区赤坂1-13-1 Tel. 03-3505-1001

S ¥8,800 / A ¥7,700 / B ¥6,600 / C ¥5,000

●東京メトロ南北線「六本木一丁目」駅（3番出口）より徒歩約5分 ●東京メトロ銀座線「溜池山王」駅（13番出口）より徒歩約7分

■学生券 学生の方は、開演15分前に残席がある場合、¥2,000で入場できます（要学生証/25歳以下）。ただし席を選ぶことはできません。開演1時間前から受付で整理券を配布します。■都合により曲目、出演者等が一部変更される場合もございます。■ご購入いただいたチケットは、公演が中止になった場合以外でのキャンセル・払い戻しはできません。あらかじめご了承ください。■未就学児のご入場は、固くお断りいたします。

読響チケットセンター 0570-00-4390

※10時～18時・年中無休

読響チケットWEB <https://yomikyo.pia.jp/>

※座席選択可/チケット郵送料無料



プレイガイド

サントリーホールチケットセンター 0570-55-0017

読響ホームページ

<https://yomikyo.or.jp/>